

神の団体の戦士としての新しい人は、
キリストを神のすべての武具の構成要素とする

聖書：エペソ 6:10-20

- I. エペソ第5章が啓示しているのは、召会が花嫁であって、キリストの願いを満足させ、彼のかたちをもって彼を表現するということです。エペソ第6章が啓示しているのは、新しい人としての召会が団体の戦士であって、神の統治権のために、地上における神の権益のために戦うということです（こうして、創世記第1章26節における神の永遠の定められた御旨を成就します）：
- A. エペソ第5章と第6章においてわたしたちは、召会が花嫁であり、また戦士でもあることを見ます。啓示録第19章にも、召会のこれら二つの面があります。
 - B. 啓示録第19章7節と8節においてわたしたちは、花嫁が「輝く清い細糸の亜麻布」を着ているのを見ます。それから14節においてわたしたちは、主に従って戦う軍勢が「白くて清い細糸の亜麻布を着て」いるのを見ます。これらの節が示していることは、花嫁の婚宴の礼服が、彼女が神の敵と戦うために神の軍勢として着る制服でもあるということです。
 - C. 召会は花嫁として、愛と光を必要とします。召会は戦士として、大能と神のすべての武具を必要とします。
- II. エペソ第6章10節から20節が啓示していることは、神の戦士としての召会、一人の新しい人のために、キリストが神の武具の構成要素であるということです：
- A. 「最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです」——エペソ 6:10-11：
 - 1. わたしたちが主の中で力づけられる必要があるという事実は、わたしたちが自分の中では霊的戦いを戦うことができないことを示しています。わたしたちは主の中で、また彼の力強い大能の中でのみ戦うことができるのです。
 - 2. 神のすべての武具は、団体の戦士としてのキリストのからだ全体のためであって、からだのどんな個々の肢体のためでもありません。わたしたちは、個人としてではなく、からだの中で、霊的戦いを戦わなければなりません——10-13節、ヤコブ 4:7。参照、ピリピ 1:19。ローマ 13:12-14。16:20。
 - 3. エペソ第2章で、わたしたちはキリストと共に天上で座っています。第4章と第5章で、わたしたちは地上で、彼のからだの中で歩いています。そして第6章で、わたしたちは天上で、彼の力の中で立っています。
 - 4. キリストと共に座るとは、彼が達成されたすべてにあずかることです。彼のからだの中で歩くとは、神の永遠の定められた御旨を完成することです。彼の力の中で立つとは、神の敵に対抗して戦うことです。
 - B. 「ですから立ちなさい。真理を腰に帯として締め」——エペソ 6:14 前半：
 - 1. エペソ第6章14節の「真理」は、わたしたちの生活の中の実際としてのキリストにある神、すなわち、わたしたちの生活の中で、わたしたちによって実際化さ

れ経験された神のことを言います。これは実は、わたしたちによって生かし出されたキリストご自身です——エペソ 4:15, 21, 24-25. ヨハネ 14:6。

2. わたしたちが帯として締める真理は、実はわたしたちが経験するキリストです。パウロの生活はキリストの模範に同形化されていたので、パウロはすべての反対と逆境に立ち向かう力を持っていました——エペソ 4:20. ピリピ 1:19-21 前半。

C. 「義の胸当てを身に着け」——エペソ 6:14 後半. I コリント 1:30. エレミヤ 23:6 :

1. キリストは義の胸当てとして、胸で表徴されるわたしたちの良心を覆います。わたしたちを訴える者であるサタンと戦うとき、わたしたちは血によってきよめられた良心、すなわち、とがめのない良心を必要とします——ヘブル 9:14. 10:22. 使徒 24:16。
2. 「兄弟たちは、小羊の血のゆえに、……彼に打ち勝った」(啓 12:11)。サタンの訴えに対するわたしたちの応答は次のようであるべきです、「訴える者であるサタンにわたしが打ち勝つのは、わたしの完全さによってではなく、とがめのない良心によってでさえなく、小羊の血によってである。わたしは義の胸当てによって、彼の訴えから守られている」。

D. 「平和の福音を確固とした土台として足にはきなさい」——エペソ 6:15 :

1. キリストはわたしたちのために十字架上で、神との平和と人との平和をつくられました。そしてこの平和は、わたしたちの福音となりました。平和の福音は、確固とした土台として、わたしたちが足にはく備えとして、確立されました——エペソ 2:13-17。
2. わたしたちは平和の中で立つことによって、霊的戦いを戦います。もしわたしたちがわたしたちと神の間の平和、あるいはわたしたちと他の信者たちの間の平和を失うなら、戦う立場を失います——コロサイ 3:15。

E. 「なおその上に、信仰の盾を取りなさい。それによって、あなたがたはあの邪悪な者の燃える火の投げやりを、いっさい消すことができます」——エペソ 6:16. II コリント 4:13. ヘブル 12:2. 参照、ピリピ 2:13 :

1. 燃える火の投げやりは、サタンの誘惑、提案、疑い、疑問、虚偽、攻撃です。わたしたちは信仰の盾を取って、これらの燃える火の投げやりを消す必要があります。
2. わたしたちは信仰の霊を活用して、服従させられ復活した意志をもって、主の現れが悪魔のわざを破壊するためであることを信じる必要があります——II コリント 4:13. I ヨハネ 3:8. マタイ 16:22-23. ルカ 4:39. マタイ 12:28. ルカ 10:17, 19。
3. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の死がサタンを滅ぼしたことを信じる必要があります——ヘブル 2:14. I コリント 15:54-58. ガラテヤ 2:20. ローマ 6:3-6。
4. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の復活がサタンを辱めたことを信じる必要があります——コロサイ 2:12-15, 20. 3:1. ヨハネ 14:30. ピリピ 3:10. イザヤ 61:10. ゼカリヤ 3:4-5。
5. わたしたちは信仰の霊を活用して、主の昇天がサタンの力よりもはるかに高いことを信じる必要があります——エペソ 1:19-23. 2:6. 6:11, 13。

6. わたしたちは神を信じなければなりません。神は真の、生ける、現在の、便利な方です——マルコ 11:22. 啓 1:18。
 7. わたしたちは神の心を信じなければなりません。わたしたちに対する神の心は常に良いのです。神にはわたしたちを罰したり、傷つけたり、損失を被らせたりする意図はありません——ローマ 8:28-39。
 8. わたしたちは神の信実を信じなければなりません。神は偽ることができず、常にご自分の言葉に対して信実です—— I コリント 1:9. I ヨハネ 1:9. テトス 1:2。
 9. わたしたちは神の能力を信じなければなりません——エペソ 3:20。
 10. わたしたちは神の言葉を信じなければなりません。神はご自分が語ったことすべてを成就するよう縛られています——参照、 I テサロニケ 5:24. エペソ 6:17-18。
 11. わたしたちは神のみこころを信じなければなりません——1:5, 9, 11. ローマ 12:1-2. ヘブル 10:5-10。
 12. わたしたちは神の主権を信じなければなりません。神の主権の下で、わたしたちの失敗でさえ働いて益となります——ローマ 9:19-29。
- F. 「救いのかぶとを受け取りなさい」——エペソ 6:17 前半：
1. 救いのかぶとは、あの邪悪な者によって投げ込まれた消極的な思想に対して、わたしたちの思い、思考を覆うためです。このようなかぶと、このようなおおい、神の救いです。
 2. サタンはわたしたちの思いの中に、恐れ、脅迫、思い煩い、心配、人を弱くさせるその他の思想を注入します。神の救いは、これらすべてに抵抗してわたしたちが取るおおいです。そして、この救いは、わたしたちが日常生活の中で経験する救うキリストです——ヨハネ 16:33。
- G. 「その霊の剣、すなわちその霊である神の言葉を」受け取りなさい——エペソ 6:17 後半：
1. 神の武具の六つの項目の中で、その霊の剣だけが、外側の敵と内側の内敵を攻撃するためのものです。わたしたちは剣をもって、外側の敵と主観的な内側の内敵を寸断します。
 2. その霊また言葉としてのキリストは、わたしたちに攻撃の武器としての剣を供給して、わたしたちの存在の中の消極的な要素を打ち破って殺します。わたしたちが御言を祈り読みするとき、最終的に、最悪の敵（自己）が死に渡されます。
 3. 「ロゴス (logos)」(聖書の恒常的な言葉)が、わたしたちに「レーマ (rhema)」(その霊の、現在の即時的な生ける個人的な語りかけ)となる時、このレーマは内敵を寸断する剣です：
 - a. わたしたちが言葉とその殺す力を取り入れれば取り入れるほど、ますますわたしたちの高ぶりとわたしたちの内側にあるすべての消極的な要素は死に渡されます。祈り読みすることによって、内側の内敵はほふられます。
 - b. エペソ第 5 章では、言葉は養いのためであり、花嫁を美しくします (26-27 節)。しかし、エペソ第 6 章では、言葉は殺すためであり、召会が霊的戦いに従事することができるようにします (17-18 節)。
- H. 「すべての祈りと願い求めによって……どんな時にも霊の中で祈り、すべての聖徒

のために根気と願い求めの限りを尽くし、このために目を覚ましていなさい」——
エペソ 6:18 :

1. 祈りは、神の武具の七番目の項目と考えられます。なぜならそれは、わたしたちが他の項目を適用する手段であるからです。
2. 祈りは、神の武具としてのキリストを適用する唯一の道です。祈りは、わたしたちが武具を実際的に用いることができるようにします。
3. わたしたちはうまずたゆまず（根気の限りを尽くして）祈る必要があります。なぜなら、祈りは戦いと関係があるからです。神とサタンの二者は互いに敵対しています。第三者は、神の選ばれ贖われた民から成っています——コロサイ 4:2. エペソ 6:18. マタイ 26:41. 参照、エペソ 5:14. ローマ 13:11-14.
4. わたしたちは神の側でサタンと戦うために、うまずたゆまず祈る必要があります。このようにうまずたゆまずいる必要があるのは、全世界の方向が神から遠く離れているからです—— I ヨハネ 5:19. 参照、ヨハネ 14:30. 16:33.
5. わたしたちはうまずたゆまず祈ろうとする前に、まず自分の祈りの生活について主に誓願を立てるべきです。わたしたちは彼に次のように言う必要があります、「主よ、わたしはこのことについて必死です。わたしは自分自身をあなたにささげて、祈りの生活を持ちます。主よ、わたしを祈りの霊の中に保ってください。もしわたしがこれを忘れてたり、軽視したりしたとしても、あなたはそれを忘れないことをわたしは知っています。祈りについてわたしに何度も思い起こさせてください」。
6. うまずたゆまず祈ることには多くの益があります：
 - a. 祈りは、わたしたちが思いを上にあるものに置くことができる唯一の道です——コロサイ 3:2. ヘブル 7:25. 8:2. 参照、使徒 6:4.
 - b. 祈りとは、至聖所へと入り、恵みの御座に進み出るための道です。それはわたしたちがあわれみを受け、恵みを見だし、時機を得た必要を満たしていただくことができるためです（ヘブル 4:16）。わたしたちが祈って、恵みの御座に近づくと、恵みは川となってわたしたちの中を流れ、わたしたちに供給します——詩歌、557 番。
 - c. わたしたちは祈れば祈るほど、主と一であることをますます経験し、ますます主の臨在を享受し、ますます主との交わりを持ちます。これは何というすばらしい褒賞でしょう！